

WORLD ROWING U23 CHAMPIONSHIPS

2014 REPORT 7 (7/23)

8:30 練習組とスタッフはホテル発

いよいよ大会初日、この日はBLM2-とBLM1xの予選が行われる。レースに出る2クルーを残して、午前中の練習時間帯に最終調整を行うクルーとスタッフは昨日大混乱の元になったシャトルバスで予定通り8:30発でバレーゼ湖に向かった。

9:10 バレーゼ湖に到着

昨日齋藤マネージャーが組織委員会に相談してくれたチームテントのレンタルが可能になった。念願のチームテントを艇置き場からほどなく近い場所に設置することができた。



念願のチームテントが設置された。既存の石でできたテーブルとベンチシートの上に設置した。

練習クルーは練習を終え会場で昼食をとったあと、ホテルに戻った。

入れ違いにまずBLM2-の二人が到着。心なしか心身ともにいい感じの緊張感が漂っていた。選手計量も終え思い思いにアップを済ませ、いざ水上へ。いよいよ2014U23日本代表の戦いが始まる。



JAPANチームの大事な先陣を切ることになったBLM2-の二人。

手前: B林選手(中央大)、
奥: S藤田選手(一橋大)

彼らを支える森山サポートコーチと共に出艇順を待つ。



水上に繰り出したBLM2-

B林選手(中央大)、
S藤田選手(一橋大)

15:56 BLM2-予選

ほぼ定刻通りにスタート。チェコが飛び出し日本は2位につける。そのまま2位で500mを通過する。後続2クルーには2秒余りの差をつけるが、チェコには4.53秒の差をつけられる。チェコとの差は詰められないものの日本は安定したストロークで2位をキープしながら1000mを通過。後続との差は3秒に広げた。アナウンスでは日本の「ハヤシ」と「フジタ」の名前が連呼されていた。日本の健闘が光っている証拠だろう。

レースはこのまま進むかと思われたが、第4クォーターに入りポルトガルが猛然とスパートしウクライナをかわし3位に上がる。日本との差も一気に詰めてきたが日本も必死にスパート。トップのチェコには及ばなかったものの、見事2位でゴールしセミファイナルA/Bへの進出を決め、先陣の重責を見事果たしてくれた。



1800m付近ラストスパートに入るBLM2-
左より 林選手(中央大)、藤田選手(一橋大)

BLM2-の次のシャトルバスで会場入りした古米選手(日本大)も着々と計量、ウォーミングアップをすませていた。やはり昨年世界ジュニアやアジアジュニアを経験していることが大きいのだろうか、非常に落ち着いた様子でスタッフと談笑しながら集中力を高めていった。BLM2-が2位でセミファイナルA/B進出を決めたことを確認し、水上へと出て行った。現地入りしてから非常に調子を上げてきているだけに何かやってくれそうな雰囲気を感じられた。



栈橋にて出艇の準備をする
古米選手(日本大)

16:52 BLM1x予選

スタートから昨年この種目の銅メダリストのアイランドの選手を抑えてイギリスと激しいトップ争いを繰り広げる。500mトップのイギリスと0.05秒差の2位で通過。練習で出ていた艇速が世界でも通じることが証明された。その後も激しく競り合いながら1000mも2位で通過。ここからアイランドが徐々に自力を発揮し2位に浮上。1500mは3位で通過することになった。

第4クォーターに入るとブラジルが激しくスパートし、日本、ポルトガルと激しい3位争いが繰り広げられた。日本は最後苦しい中よく持ちこたえ4位でゴール。クォーターファイナルへの進出を決めた。



BLM1x古米選手(日本大)の
ゴール前の激しいデッドヒート。

この日行われた2種目共に予選を突破するという、良い滑り出しとなった。選手たちは次の戦いへ向けて早速切り替えている様子であった。

明日(7/24)は残り5種目での予選が行われる。選手・スタッフ一丸となって戦って行きます。